

一 次の傍線部の漢字をひらがなに、ひらがなを漢字に直しなさい。ただし、送り仮名まで書くこと。（言語の力 計10点）

① 支社への赴任

② 極端な話だ。

③ 濃霧に注意する。

④ 意見を述べべる。

⑤ 首を傾げる。

⑥ 手をにぎる。

⑦ おもむきがある。

⑧ おんこうな人。

⑨ ようちな考え。

⑩ げんこう用紙。

二 次の文法と漢字の問題について答えなさい。

(1) 次の文を文節に区切り、「文節の数」を漢数字で答えなさい。（各2点）

① 庭に花が咲いた。 ② 山に登るのは、そこに山があるからだ。

(2) 次の文を単語に区切り、「単語の数」を漢数字で答えなさい。（各2点）

① 庭に花が咲いた。 ② 彼は私たちの学校の生徒会長だ。

(3) 次のア～クの中から、「洗顔」と同じ構成の熟語を一つ選び、記号で答えなさい。（2点）

ア 速報 イ 取捨 ウ 早速 エ 寒冷 オ 伸縮 カ 帰国 キ 雷鳴 ク 日没

三 次の詩について、下の問いに答えなさい。（読む力 計15点）

見えないだけ 牟礼 慶子

空の上には

もっと青い空が浮かんでいる

波の底には

もっと大きな海が眠っている

胸の奥で

(1) この詩はいくつの連からできているか。漢数字で書きなさい。（3点）

(2) 「あんなに確かに在るもの」とあるが、作中で「胸の奥」にあるものは何か。作品中から五字で書き抜きなさい。（3点）

(3) 「まだここからは」に込められた作者の気持ちに合うものを次から選び、記号で答えなさい。（3点）

ア 想像の中で豊かな広がりのある世界を築き、自分を見つめなおして

ことばがはぐくんでいる優しい世界

次の垣根で

蕾をさし出している美しい季節

少し遠くで

待ちかねている新しい友だち

あんなに確かに在るものが

まだここからは見えないだけ

ほしいという思い。

イ これまでに経験したことのない厳しい現実に対して、心構えをして

ほしいという思い。

ウ この先に待ち受けているものに対して、勇気を出して立ち向かって

ほしいという思い。

エ これから新しい世界に出会うことに対して、希望や喜びを感じてほし

いという思い。

(4) これまでの自分の生活の中で、印象に残った出会いは何んなこととの

出会いか。また、その出会いであなたはどのような変化をしたか。具体

的にかきなさい。

(6点満点)

#### 四 次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。ただし、全て句読点は一字に数える。

(読む力 計15点)

【本文】 春はあけぼの「第一段」

春はあけぼの。①やうやう白くなりゆく山際、少し明かりて、紫だちたる雲の細く( A )。

夏は夜。月のころはさらなり、闇も②なほ、螢の多く飛びちがひたる。

また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くも③をかし。雨など降るもをかし。

【現代語訳】

春は明け方。だんだん白んでゆく山際(の空)が、少し明るくなつて、紫がかつた雲が細くたなびいている(のが良い)。

夏は夜。月の(明るい)ころは言うまでもない(ことで)、闇(夜のころ)もやはり、螢がたくさん飛び交っている(のが良い)。また、ただ一つ二つなど、ほのかに光って(飛んで)行くのも趣がある。雨など降るのも( B )。

ほしいという思い。

(1) 本文中の傍線部①③を現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書きなさい。

(1点×3)

(2) ( A ) に当てはまる言葉を六字で書きなさい。

(3点)

(3) ( B ) には「をかし」の現代語訳が入る。四字で答えなさい。

(3点)

(4) この段では本文の他に秋や冬についても作者の考え方が述べられている。作者は秋・冬についてはいつの頃がよいと述べているか。それぞれ書きなさい。【完答3点】

(5) この作品の名前と作者名をそれぞれ漢字で答えなさい。【完答3点】

【五】次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。ただし、全て句読点は一字に数える。

(読む力 計24点)

その日も、夕食の後に僕はぐうちゃんの部屋でほら話を聞いていた。でっかい動物の話だった。

「悠君。①世界でいちばん長い蛇は何だか知っているか。」

ぐうちゃんは、細い目をめいっばい見開くようにして僕にきいた。それは、いつもおもしろい話をするときのぐうちゃんの癖で、だから、僕はぐうちゃんのその表情が好きだ。でも、今日は話のテーマがちよっと幼稚すぎる。とはいえ、宿題するよりはずっとおもしろそうだから、母に見つかるまでその話を聞いていることにした。

「アナコンダとかいうやつだね。アフリカの密林あたりにいる。」

「悠君は地理に弱いんだなあ。アナコンダがいるのはアマゾンだよ。現地の人はスクリージュとよんでいて、これはポルトガル語で水蛇という意味だ。長く太くなりすぎて蛇行するには地球の重力が負担になって水に入ったんだ。」「泳いでいて出会ったら嫌だな。」

「そう。本当に人間なんか簡単に飲み込んでしまう。生きている馬だって飲み込んでじゃうんだぞ。」

ぐうちゃんの話はいつも怪しい。僕がおもしろがればいいと思っっているのだ。

「そんなのうそだろ。だって馬の背は人間より高いし、体重だって普通五百キロはあるって何かの本で読んだよ。アナコンダがいくら大きいといってもそんな大きな口は開けられないだろ。ありえねえ。」「ありえねくないんだよ。」ぐうちゃんに変な言い方をした。

「立っている馬をそのまま大口を開けて飲み込むわけじゃないんだ。まず馬の首のあたりにかみついて馬をひっくり返す。それから馬の体に巻き付いて馬の脚の骨をバキバキ折っていく。全体を丸くしていくんだなあ。それから、ゆっくり、飲んでいくんだ。」

②本当かなあ。力の籠もった話し方を聞いていると、うっかりぐうちゃんのほら話の世界に取り込まれてしまいそうになる。でもその怪しさがやっぱりおもしろい。

「悠君。アマゾンの動物はみんな大きいんだ。ナマズもでっかいのがあるぞ。どのくらいだと思う？」どうせほら話だから僕も大きく出ることにした。

「そうだね。じゃーメートル!」「ブブー。」外れの合図らしいけどまるっきり子供扱いだ。

(1) ①世界でいちばん長い蛇 とあるが、それは

「どこに住んでいる」「何という名前の蛇」か。具体的に答えなさい。(3点)

(2) ②本当かなあ とあるが、ここまでの話を聞いた「僕」は、ぐうちゃんの「アナコンダの話」をどう思っているか。「③本当かなあ」よりも後の表現から十六字で書き抜きなさい。(3点)

(3) アマゾンに住む大きなナマズと北極のアイヌプラネットの話を聞いた「僕」は、どう思ったか。「僕」の言葉の中から五字で書き抜きなさい。(3点)

(4) ④それを口実に逃げることにした とあるが、「僕」が「逃げることにした」理由を、文章中の言葉を使って、書き出しに続けて三十文字以内で書きなさい。(3点)

「アマゾンでは普通に三メートルのナマスがいるよ。」「うそだあ。ありえねえ。」

さすがに頭にきた。僕を小学生ぐらいと勘違いしているんだ。

「うそじゃないよ。口の大きさが一メートルぐらいたよ。」

「ふうん。」なんだかばかしくなったので気のない返事をした。

「あ、信じてないだろう。じゃあがらっと変わって、きれいで小さい宇宙の話をしようか。」

「ふうん。」なんだかばかしくなったので気のない返事をした。

「あ、信じてないだろう。じゃあがらっと変わって、きれいで小さい宇宙の話をしようか。」

「ふうん。」なんだかばかしくなったので気のない返事をした。

「あ、信じてないだろう。じゃあがらっと変わって、きれいで小さい宇宙の話をしようか。」

「あ、信じてないだろう。じゃあがらっと変わって、きれいで小さい宇宙の話をしようか。」

「あ、信じてないだろう。じゃあがらっと変わって、きれいで小さい宇宙の話をしようか。」

「あ、信じてないだろう。じゃあがらっと変わって、きれいで小さい宇宙の話をしようか。」

「あ、信じてないだろう。じゃあがらっと変わって、きれいで小さい宇宙の話をしようか。」

「あ、信じてないだろう。じゃあがらっと変わって、きれいで小さい宇宙の話をしようか。」

「あ、信じてないだろう。じゃあがらっと変わって、きれいで小さい宇宙の話をしようか。」

「あ、信じてないだろう。じゃあがらっと変わって、きれいで小さい宇宙の話をしようか。」

「あ、信じてないだろう。じゃあがらっと変わって、きれいで小さい宇宙の話をしようか。」

「あ、信じてないだろう。じゃあがらっと変わって、きれいで小さい宇宙の話をしようか。」

「あ、信じてないだろう。じゃあがらっと変わって、きれいで小さい宇宙の話をしようか。」

「あ、信じてないだろう。じゃあがらっと変わって、きれいで小さい宇宙の話をしようか。」

「あ、信じてないだろう。じゃあがらっと変わって、きれいで小さい宇宙の話をしようか。」

「あ、信じてないだろう。じゃあがらっと変わって、きれいで小さい宇宙の話をしようか。」

「あ、信じてないだろう。じゃあがらっと変わって、きれいで小さい宇宙の話をしようか。」

「あ、信じてないだろう。じゃあがらっと変わって、きれいで小さい宇宙の話をしようか。」

「あ、信じてないだろう。じゃあがらっと変わって、きれいで小さい宇宙の話をしようか。」

「あ、信じてないだろう。じゃあがらっと変わって、きれいで小さい宇宙の話をしようか。」

(沼田 英治『クマゼミ増加の原因を探る』)

(5) ④ 無愛想に言った とあるが、これは「僕」が

どのように言ったことを表しているのか。

最も適切なものを次のア～エの中から選び、

記号で答えなさい。

(3点)

ア 格好つけて言った

イ つつけんどんに言った

ウ 慌てて言った

エ にこにこして言った

(6) ⑤ むっとした とあるが、「むっとした」理由を、

「証拠」「言い逃れ」の二語を使い、書き出し

に続けて三十字以内で書きなさい。(3点)

(7) 「むっとした」以外で、「僕」の腹立たしさを

表している表現を、十七字で書き抜きなさい。

(3点)

(8) あなたは「大ナマズ」や「アイスプラネット」

のような世界の不思議に対して、実際に自分

の目で見てみたいと思いますか。「思う」「思

わない」どちらかの意見に続けてその理由を

具体的に書きなさい。

(3点)

六 次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。ただし、全て句読点は一字に数える。

(読む力 計16点)

〔仮説3〕ヒートアイランド現象による乾燥と地表の整備による土の硬化

大阪市内では、なぜクマゼミの占める割合が、これほど高くなったのか。私たちは、幼虫が②孵化して土に潜る段階」に注目した。〔仮説2〕でも述べたとおり、雨が降ると土がぬかるんで軟らかくなり、幼虫が地面に潜りやすくなる。しかし、①都市化の進んだ大阪市内では、地表の大半が舗装されており、セミは地面に潜れない。さらに、公園などに残された土も、人の足で踏み固められ、ヒートアイランド現象の影響で乾燥しきっている。雨が降っても、野原や森林の土のように、ぬかるむことはない。

私たちは、図1に示した抜け殻調査をする際に、それらの地点の土の硬さも測定していた。その結果、クマゼミが多い市内の公園は土が硬く、クマゼミが少ない市外の緑地や森林は土が軟らかいことがわかった。私たちは、②この違いに注目し、次のような仮説を立てた。

〔仮説3〕クマゼミの幼虫は土を掘る力が強く、ヒートアイランド現象による乾燥と地表の整備によって硬化した地面にも潜ることができる。

この仮説を検証するために、私たちは、セミの幼虫が土に潜る能力を実験で比較した。まず、四段階の硬さに押し固めた土を用意して、そこに孵化したばかりの幼虫を入れた。そして、一時間以内に潜れるかどうかを観察した。結果が図7である。クマゼミは他のセミと比べ、硬い土に潜る能力が圧倒的に高かった。乾燥と地表整備で、他のセミが潜れなくなるほど硬くなった地面にも、クマゼミだけは潜ることができる。これが、大阪市内でクマゼミの占める割合が高まった原因と考えられる。

(沼田 英治『クマゼミ増加の原因を探る』)

(1) 「問い」を示している一文を探し、初めの五字を書きなさい。(3点)

(2) ①都市化の進んだ大阪市内について、舗装されていない地面はどのような状態か。十字以内で書きなさい。(3点)

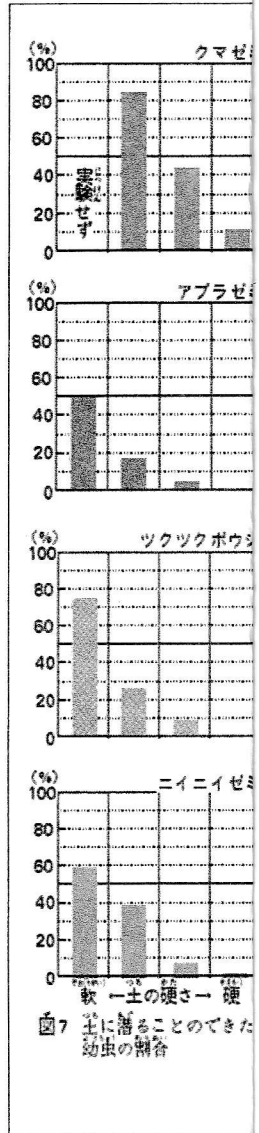
(3) ②の状態は蟬の幼虫にとってどんな影響があるのか。簡潔に書きなさい。(3点)

(4) ②この違いとあるが、これは何の違いか。本文の中から書き抜きなさい。(3点)

(5) 筆者は「仮説3」を検証するためにどんな実験をしたか。簡潔に書きまとめなさい。(3点)

(6) 図7を示す効果をまとめた、次の空欄(A)に入る適切な言葉を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。(1点)

☆ 実験の結果を「視覚的」に伝える効果と、筆者の仮説が正しいことを裏付ける(A)となる効果がある。



【七】 次の1〜5の条件に従って作文を書きなさい。

(書くこと 計10点)

1. 「自分の思い出に一番残っている場所」について80字以上100字以内で書くこと。ただし、題名・氏名は必要ありません。 ※この条件を守れないと得点になりません。

2. 二段落構成で書き、一段落目には自分が考える「自分の思い出に一番残っている場所」を書くこと。

3. 二段落目には、なぜ第一段落で述べたように考えるのか、具体的な体験を含めた根拠を書くこと。

4. 文体は常体(〜だ・〜である調)で統一して書くこと。

5. 誤字・脱字や文法の間違い、原稿用紙の使い方に注意して、丁寧な文字で書くこと。

「途中であきらめてはいけな。途中であきらめてしまったら、得るものより失うものの方が、ずっと大きくなってしまふ。」 (ルイ・アームストロング)